

子供砂防教室や子供地すべり学会を通しての 土砂災害の啓発活動

受賞機関 富山県土木部砂防課

はじめに

小中学校の総合学習の時間を活用し、出前県庁などにより、地すべり等の土砂災害の勉強や、創意を凝らした実験などの砂防教室を開催した。また、子供たちが地すべり学会や地元の防災講習会でその成果を発表し、一般県民等への啓発を行った。

・事業実施期間 平成15年4月～平成16年3月

事業の概要・特徴

富山県内には、多くの土砂災害危険箇所があり、尊い人命・財産を脅かしている。土砂災害から人命を守るため、災害の実態や砂防事業を広く一般県民に周知を図る一環として、子供砂防教室等を開催した。

(1) 子供砂防教室の開催

将来を担う子供たちに、土砂災害の恐さや土砂災害から県民の生命・財産を守るための砂防の意義を小・中学校の総合学習の場を活用して、砂防課が中心となり、県土木センター、立山カルデラ砂防博物館や市町村、NPO法人富山県砂防ボランティア協会などと連携して、「出前県庁」などにより、学校での講習会や実験、現地見学会、カルデラ砂防博物館の見学などの子供砂防教室を開催した。10校で延べ22回開催し、延べ約1,000名の児童が参加した。

(2) 子供地すべり学会の開催

昨年8月、全国の地すべりに関わる研究者や技術者らが集い、「(社)日本地すべり学会第42回研究発表会及び現地見学会」が富山県において開催された

が、この研究発表会の中で、地すべりについて研究した成果を発表する「子供地すべり学会」を実施し、県内の6校が研究発表を行った。

子供たちは、地すべり地の各種観測、泥岩の風化実験、レンガが斜面を滑り出す角度の摩擦実験、地下水と地盤の緩みの実験、地すべり災害地の見学や被害者へのインタビューなどを行った結果を発表するなど、大人顔負けの研究発表を行い、地すべり学会員に刺激を与えた。また、担当された氷見市立明和小学校の先生の教育論文が、市の教育大会で1席に選ばれ、教育界からも高い評価が与えられた。

子供地すべり学会の発表校

大山町立小見小学校(4～6年生、13名) 『アイらぶ小見 - 暴れ常願寺川のなぞに挑む』
朝日町立朝日中学校(2年生、4名) 『水と土砂の関係』
小矢部市立石動小学校(6年生、16名) 『大発見! 水辺の楽校の秘密』
八尾町立八尾中学校(1年生、8名) 『我等のふるさとYatsuo』
氷見市立明和小学校(6年生、20名) 『ザ・地すべり大研究』
平村立平中学校(3年生、11名) 『みんなで守る世界遺産～身近な地すべり対策～』

事業の成果

多くの地すべり危険箇所を抱え、地すべりが宿命である富山県において、子供たちが創意工夫を凝らした実験などで地すべりを研究することで、知識のみならず、地すべりと共存する術を学ぶなど、土砂災害に対する認識を深めた。また、一般を対象とした講習会でも発表し、子供たちから県民に対しての啓発も行い、県民の認識の向上にも寄与した。



地下水上昇による地盤の緩みの実験



子供地すべり学会参加関係者